

## ○アンケート結果について

- ・見やすくてよい
- ・移住者が多い多様な食文化・習慣の中で規則的な生活リズムの定着が難しい地域のように思う。
- ・共食、スポーツ栄養、給食、地産地消、環境や健康問題に至っても意識をする村民が増えていると感じる。
- ・住民の生の声が聴けてよかった。よくも悪くも色々な意見があるなど感じた。
- ・健康状態の問にて、気づかないところで調子が悪くなる場所があると思う。健診の重要性を伝えられるとよい。
- ・食への関心の高さに感激する。長野県は知・徳・体を教育方針にしてきたがこれに食が加わればさらに素晴らしい教育ができると思う。
- ・自営業、飲食店の多い白馬での一般都市部との違いはあると思う。
- ・英語版があるとよい
- ・朝食の重要性について感じさせるような積極的な周知が必要と感じた。
- ・学校給食において完食の無理強いはないが、自分が食べることのできる量を残さず食べるが基本となる。一方、そういった環境、食品ロス配慮したSDGsの活動の陰で、嫌いだから食べない、好きなものはたくさん食べるという子もおり、バランスよく食べるという姿も少なくなりつつあるように思う。健康面や生産者とのかかわりを知ったうえで、自分の適量を知ったり、感謝の気持ちを持ちながら食事ができるようになるとよい。
- ・特定の機関を攻撃することなく食べることは個人の責任であることを確認する場が必要と感じる。
- ・大多数が「おいしい」と感じるものはだいたい塩分が過剰。また、伝統食でもある漬物なども塩分過多の要因になりえるが、健康面で考えると「減塩」が重要視される葛藤。そのほかにも食の持つ多面性にどのように折り合いをつけるか。

## ○素案について

- ・わかりやすくてよい。地域が一体となれるいい機会。
- ・課題について朝食の重要性については強くいれていただきたい。
- ・目標値の設定はより具体的に数字にした方がわかりやすい。
- ・地場産品供給状況一覧にて品名の基準は何か？重量の多い順に41位まで+その他？米や肉類の地場産品の供給総量は把握していますか？
- ・「生活習慣」という目標はいいと思う。
- ・文部科学省では「早寝。早起き。あさごはん」を推奨していると思うが、「早起き、早寝、あさごはん」となっているのはなぜか。言い方が違うと混乱するのでは。
- ・目標に向けた取り組みは、目標をもっと絞ってもいいのではないか。「食育」は範囲が広すぎる。
- ・さらなる周知と実践に向けての具体的な提案があるとよく、前計画の各年テーマはあった方がよかった。
- ・実施の際にテーマを決めたらいいのでなくてよかった。

## ○その他

- ・受験生・アスリート・ダイエットなどそれぞれ食との関係に興味をもてるような取り組みはどうか。
- ・小人は情操教育的、大人は健康目的なところがテーマになるかと。
- ・農産物の栽培指導にあたり地産地消の農産物供給を拡大していきたい。農家数も減少のため有機栽培などの生産者確保も合わせて行っていきたい。
- ・家庭を基本とし、地域等すべての関わりがかみ合うことが重要。経験、時に失敗を通し、成長していくのが理想。食べのものを通し感謝の気持ちを育てられる家庭になってほしい。
- ・地域内流通に力を入れて取り組めば生産する側もやる気が出ると思う。紫舞を広く広報し地元消費を増やしたい。
- ・給食センターに統合されたことにより、従来の出荷者には出荷規格が厳しく受けとられ、出荷意欲低下により村内自給率の低下が予想される。対応策を講ずる必要がある。
- ・「食育はこうでなければいけない」と押し付けではなく「食育は大事だ」と村民がそれぞれの関心をもち、大事に思えるものになればよいと思う。白馬村民の食育への意識はかなり高いと感じる。
- ・連携・協働のため、毎年会議を開催してはどうか。
- ・食品関連業者等の理解・協力を得て減塩食品の提供店や県の「3つの星レストラン」、ヘルシーメニュー提供店を増やし、スタンプラリーなど住民にアピールしてはどうか。
- ・学校給食について食育の拠点として家庭の食生活の改善につなげるため、住民への試食会や講演会などの機会をつくりアピールしてはどうか。
- ・給食から離れる高校生から健診の始まる若い世代の食育指導の機会をもうけたい。
- ・「新たな日常」下で職場における従業員への食育、災害時の食育なども今後必要とされるのでは。